

## 特集展示コーナー解説シート

### ◆太宰治・坂口安吾も訪れた高麗神社

埼玉県の日高市にある高麗神社は、ここを参拝して総理大臣になった政治家が多いことから「出世の神様」として知られています。この高麗神社には、政治家ばかりではなく作家も多く訪れており、芳名帳には太宰治や坂口安吾の署名もあるのです。



高麗神社

太宰は、昭和 18(1943)年 12 月 23 日に「阿佐ヶ谷会」同人の作家仲間たちと一緒に高麗神社を訪れました。残念ながら太宰の作品に高麗神社が登場するものはありませんが、同行した上林暁（かんばやしあかつき）がこの時の様子を「太宰治と弁当」という一文（注）に綴っています。

安吾は昭和 26（1951）年 10 月 18 日に、檀一雄・中野修とともに高麗神社を訪れ、祭りに奉納される獅子舞の練習を見た感想を「高麗神社の祭の笛」と題して雑誌『文藝春秋』に発表しています。無頼派として知られる二人が、ともに高麗神社を訪れていたことは興味深く感じられます。また、高麗神社の境内には、尾崎紅葉の献木もあります。

（注）『「阿佐ヶ谷会」文学アルバム』（2007、幻戯書房）所収

高麗神社へのアクセス：JR 川越線・八高線 高麗川（こまがわ）駅から徒歩約 20 分

参考 Web サイト <http://www.komajinja.or.jp>（高麗神社）

### ◆「文豪ストレイドッグス DEAD APPLE（デッドアップル）」と澁澤龍彦

2018 年 3 月 3 日より公開された映画「文豪ストレイドッグス DEAD APPLE」には、「コレクター」と呼ばれる、謎に包まれた異能力者として澁澤龍彦（注）が登場します。

実在の澁澤龍彦（1928～1987）は、小説家・フランス文学者・評論家として活躍した人物です。東京都の生まれですが、父の勤務の関係で幼い頃を埼玉県の川越で過ごし、旧制浦和高等学校（埼玉大学の前身）在学中は北浦和にも居住していました。また、父の実家は埼玉県の深谷にあり、実業家として高名な渋沢栄一の縁戚でもあります。



旧制浦和高等学校

『狐のだんぶくろ』や『玩物草紙』などの著書には、龍彦と埼玉との関わりを知ることができる文章が収録されています。また、旧制浦和高等学校の跡地は現在北浦和公園になっており、正門がモニュメントとして保存されています。

（注）「彦」は、正式には「彦」の文字を用います。

北浦和公園へのアクセス：JR 京浜東北線 北浦和駅（西口）から徒歩約 3 分

\* 旧制浦和高等学校の正門へは公園の中に入らず、フェンスに沿って左手方向に進んでください。公園内には埼玉県立近代美術館や旧制浦和高校生の像などもあります。

参考 Web サイト <http://www.geocities.jp/qsay55/UW.html>（華麗なる旧制高校巡礼）



北浦和公園にモニュメントとして残された旧制浦和高等学校の正門

## ◆中島敦と「斗南先生」<sup>となん</sup>

『文豪ストレイドッグス』第 57 話「悲劇なる日曜日（サンデイ・トラジデイ）」には、「斗南先生」というキャラクターが登場します。作中では司法次官という設定ですが、実在の斗南は本名を端蔵（たんぞう）といい、中島敦の伯父にあたる人物なのです。

昭和 17（1942）年に刊行された中島敦の作品集『光と風と夢』には、この伯父をモデルにした「斗南先生」という短編小説が収録されています。敦がこの作品の中で「6歳で書を読み、13歳で漢詩漢文を能くした」と記しているように、実在の斗南は秀才ではありましたが、奇行の多い人だったそうです。

「斗南先生」は、「利根川ベりの田舎」（久喜）に住む伯父の斗南が旧制高校に通う三造（敦をモデルにした主人公）の下宿を突然訪問するところから話が始まり、斗南についての回想が綴られています。

参考 Web サイト

<https://www.city.kuki.lg.jp/shisei/kokai/tenji.html>（久喜市公文書館）

\* 『中島敦とその家系』『中島敦の「斗南先生」・実話』などの図録がダウンロードできます。

[http://www.city.kuki.lg.jp/miryoku/kanko\\_tokusan/a100040030.html](http://www.city.kuki.lg.jp/miryoku/kanko_tokusan/a100040030.html)（中島敦ゆかりの地）

[http://www.city.kuki.lg.jp/miryoku/rekishi\\_bunkazai/rekishi\\_dayori/dai65kai.html](http://www.city.kuki.lg.jp/miryoku/rekishi_bunkazai/rekishi_dayori/dai65kai.html)（久喜歴史だより 第 65 回 中島敦の小説「斗南先生」）



中島敦とその家系



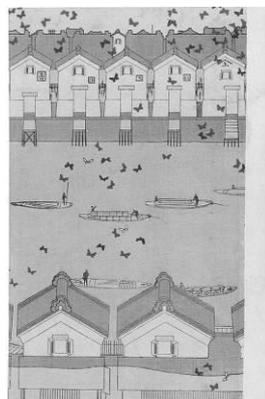
中島敦の「斗南先生」・実話

## ◆泉鏡花と小村雪岱<sup>せったい</sup>

『文豪ストレイドッグス』では少女として描かれている泉鏡花ですが、実在の鏡花は男性で、本名を鏡太郎といいます。

鏡花は、幼い頃に赤痢（せきり）にかかった経験から極度の潔癖症で、異常なほど「ばい菌」を恐れていました。そのため、火を通していないものは絶対に口にせず、お菓子も火であぶってから食べ、水や日本酒も沸騰させてから飲むという徹底ぶりだったそうです。そんな鏡花の大好物が湯豆腐でした。ただし、「腐」という字は見るのも嫌だったので、鏡花は豆腐のことを「豆府」と書いていました。

この鏡花の著書の装幀を多く手がけたのが、埼玉県の川越出身の画家・小村雪岱です。「雪岱」という号は鏡花が名づけたもので、雪岱の随筆集『日本橋檜物（ひもの）町』には、鏡花の思い出が綴られています。



『日本橋』

雪岱が最初に装幀を手がけた鏡花の著書



『斧琴菊』

雪岱による美しく豪華な装幀が施された鏡花の著書。当館の総合案内でこの表紙をプリントしたクリアファイルを販売中。